

Departure

English Expression

「表現力」と「論理的思考力」を伸ばす

三仙真也



＜・・「思考のルーティン化」を通じて

Departure English Expression II では Part 3 以降すべての Part を通じ、「ブレインストーミング」にはじまり、「構成」や「肉付け」に加え、「エッセイ・ライティング」や「発表」にいたるまで“ルーティン化”されています。これにより、生徒の思考プロセスが明確になり、ダイレクトに表現力の育成につながります。生徒にとって見通しのきく言語活動になるとともに、あらゆる活動が適切な負荷となりえるからです。

2年間本校が指定を受けた文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」や同省での実践発表を通じて私が痛感したのは、英語科内でのチーム意識に加え、指導方法や目指す学習者像の共有の必要性でした。*Departure II* を用いることはこれらを可能にし、またアイディアを制限することなく論理的なパッセージ・ライティングや意見を交わす活動につながられる点で大変有効です。つなぎ言葉やディスコースマーカーに着目してライティングをしたり、自分のライティングを客観視してリライトしたりする活動により、生徒の表現力は確実に伸びていると確信します。本稿では *Departure II* を用いて私がどのような活動を行ったかを、Part ごとに分けて3つ紹介します。

＜・・Part 3 Expressing Opinions「社会問題 “教員の入学式参加について”パラグラフ・ ライティング」

Part 3 では自転車免許制や外国語学習など、やや社会的な内容についても論理的に構成し、賛成・反対の両方の視点から書くことが求められま

す。本校が作成した「学習到達目標（CAN-DO リスト）」においても、「社会性の高いテーマについて読む・スムーズな流れの文章を書く」ことを目指して到達段階を具体的に数値として設定し、その達成のために授業を組み立てています。

私は授業に必要な視点は授業中のタスクがいか

に生徒にとって relevant であるかだと考えています。もちろん関連づけるための意識付けや工夫も重要ですが、いかに教材が生徒に近いもので、考えを刺激しうる題材を選択するかが、最終的な言語活動の充実、さらには我々英語教員が生徒に「つけさせたい力」の定着度を決定する重要な要素であると考えます。

この点をふまえ、授業では「教員が新担任となる学年の入学式を欠席して、子どもの入学式に参加することの是非」を取り上げ、英字新聞の記事を読み込むインプット活動ののち、意見をプレス

ト、関連付け、構成…と *Departure II* の学習に沿った授業を行いました。ディスカッションを行い、最終的に賛成・反対のいずれかの立場でのパラグラフ・ライティングを課しました。

教科書外の題材から持ち込んだ内容でしたが、生徒は *Departure II* のプロセスで慣れた方法で自分の意見を構成しました。教職員を親に持つ生徒も多いため、生徒の課題に対する relevance が非常に高く、生徒同士でも発言を集中して聞く姿勢が見られました。ある生徒の「教員である前に親なのだから参加すべき」という意見に対しては、教員を親に持つ生徒が「教員の仕事は他の生徒も自分の子どものように接する。それを子である自分も受け入れているし、教員は彼らを優先す

べきだと思う」と英語で発言をしました。難しい論題を生徒がインタラクショを通じて英語で論理的に発言することができました。

◀・Part 4 Presenting Opinions「タブレットを用いた図表・グラフプレゼンテーション」

Part 4 では、Part 3 で得られた論理的に書く力を生かして、資料やエピソードを示しながら自分の考えを発表することが求められます。発表者としての注意点も明確に示され、これまでのプロセスにしたがって考えを書き、推敲した文章を分かりやすく伝えることに留意させました。

使用した題材は福岡県立大学の2010年度入試問題の小論文「ワーク・ライフ・バランスについて」です。グラフや図表など10種類ほどの資料をもとにして要約を課す特徴的な問題ですが、Part 3 でグラフ資料を扱った経験を生かして、内容を英語でリテリングする活動を行いました。タブレットは自分なりに分かりやすく書いたり色を塗ったりしたグラフを写真に撮ってピンチアウトで拡大したり、前後のページもフリップで自由に行き来できるため、生徒にとっても伝えやすいと好評でした。事前のリハーサルでは自分のリテリングの様子をビデオに収録し、デリバリーに注意し、より魅力的なプレゼンになるように工夫させました。

その後は「仕事を優先すべきか家庭を優先すべきか」について即興でのディベート。政策論題ではなく、両方の長所・短所を考える必要があり、議論は複雑になりました。しかし *Departure II* で説明されている留意事項を全員が理解し、ペアワークをインプットとして利用できたことで最終的なディスカッションも白熱したものとなりました。

このように、入試問題としての演習を特別に設けるのではなく、小論文への応用も含めて日頃からコミュニケーション能力の伸長を重視しつつ様々な題材を扱うことで、結果的に入試にも対応できる（例えば自由英作文も論理的に書くことが

できる）表現力と論理的思考力が身につきます。

◀・Part 5 Exchanging Opinions「モデレーターを活用した即興パネル・ディスカッション」

本校の国際探究科2年生は「体育祭は6月開催にすべきである。是か非か」という論題で英語ディベート学習を行いました。非常に relevance の高い活動として、論理的思考力と英語の表現力を伸ばすことができました。

この活動をふまえてさらなる表現力の伸長のため、Part 5 を参考に、本年度の高校生英語ディベート大会のテーマである「原子力発電所廃止の是非」などについて即興で相手の意見をまとめて反駁するというパネル・ディスカッションを行いました。相手の意見をまとめたうえで、反駁の要素・根拠を明示して論を述べるようにしました。

また、ここでは特にモデレーターの役割を重視し、司会的役割だけでなく、AFF (affirmative)/NEG (negative) の双方の意見をまとめて相手側に反駁を促したり、グループの中で発言者を均等に割り振ったりと、議論が円滑かつ活発に行われるようにしました。

これら AFF/NEG の立場に加えて、中立的かつ相当の英語力を必要とするモデレーターの役割を交代で行うことで、attack, defense, summary のような形式を重視した英語ディベートとはまた異なる、即興性が高いなかで論題を様々な側面から分析する力のつく授業を展開することができます。

◀・おわりに

「生徒の思考を予測できることが大切」。恩師の言葉です。自分の意見を持ち、論理的思考力を用いて考えた内容を、豊かな表現力で伝える…。3年間で培うべき力を、そして我々英語教員が行うべき授業のあり方を、*Departure* は示してくれていると思います。

(さんぜん しんや・福井県立若狭高等学校教諭)